



# はばたき

## 感動をありがとう!

東京2025世界陸上  
2025年9月13日～21日

**HAA**  
Hyogo Athletics Association  
一般財団法人  
兵庫陸上競技協会  
2025年12月発行



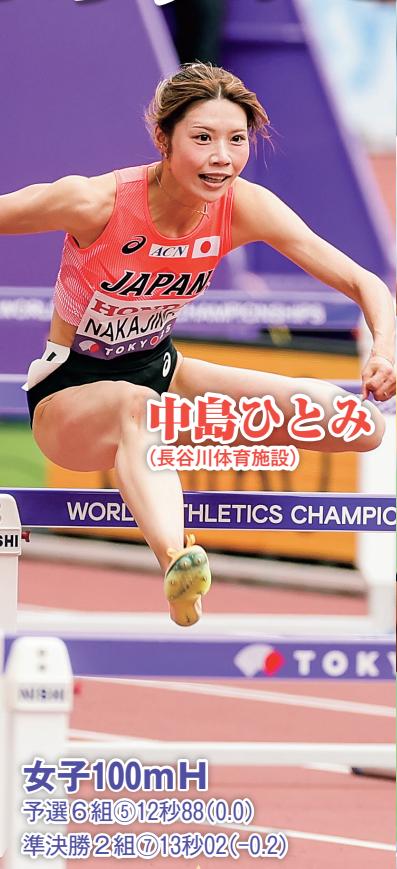
女子1500m

予選1組⑩4分07秒34

女子5000m

予選1組⑥14分47秒14

決勝⑫15分07秒34



女子100mH

予選6組⑤12秒88(0.0)

準決勝2組⑦13秒02(-0.2)



男子1500m

予選1組⑬3分41秒76



男子やり投

A組⑯77m01

写真：陸上競技マガジン

絶対に引かないで走ることはできたと思います。最後はへなへなになってしまったのですが、走り方も含めて全部等身大の実力だったと思います。今日は反省の余地がないくらいに完敗です。本当の意味でもっともっと強くなれるようにしていきたい。(5000m決勝)

最高の2日間でした。悔しさもありますが、走り続けてきてよかったです。準決勝は思うように走れませんでしたが、一生忘れられない景色を見られましたし、幸せな気持ちを皆さんからいただきました。日本のハーダラーみんなで世界を目指せるようになります。

もうちょっとまともなレースをしたかったのですが、悔しいにも及ばないような情けないレースだったと思っています。あらゆる展開に対応できるような準備はてきて、途中まではよかったのですが、ペースアップに対応できなかつたのは実力不足だと思います。

身体の使い方をうまくやれば、もっと遠くに投げられるだろうなというヒントはあるので、今日は悔しい。思うような準備ができないまま今日を迎えて、現状の精いっぱいでした。こういう経験ができるよかっただと思えるよう、今後に生かしたいという思いが強いです。

第20回世界陸上競技選手権で兵庫陸協登録の4選手も健闘した。出場4回目の田中希実は1500mで予選敗退だったが、前回8位の5000mは決勝に進出。スローペースのなか、集団前方で走る場面もあり、7番手で残り1周を迎えた。入賞圏内で余力を振り絞ったが、「最後はへなへなになってしまい」(田中)、12位でフィニッシュした。望んだ結果ではなかったはずだが、自分のスタイルで今持

てる実力を出し切った田中。すがすがしく見えた表情が充実感の大きさを物語っていた。

女子100mHで日本歴代2位の12秒71を持つ中島ひとみは世界陸上初出場。プラスで進んだ準決勝では組7着となり、世界トップ層との実力差を痛感させられた。それでも、「また次の挑戦へ向かいます！」(本人X)と意欲的。世界陸上が帰ってきたい場所になった。

今季13年ぶりに自己記録を84m66に更新した、男子やり投のディーン元氣は不本意な結果に。大会前に腰のケガが判明したが、「必死に準備して得られるものがありました」と下は向かない。不屈の投つきをこれからも見せてくれるだろう。男子1500mの飯澤千翔は予選のペースアップに対応できなかつた。あと0秒20に迫った日本記録の更新が世界に再挑戦する第一歩になる。



2025年10月3~7日 平和堂HATOスタジアム(彦根市)

兵庫は男女計122点を挙げ、14年ぶり3度目の男女総合優勝を果たした。女子総合優勝も6年ぶりに達成。二冠は2006年兵庫国体以来の快挙となった。

初日に少年男子A5000mで新妻遼己（西脇工高3年）が金メダルに輝き、チームを勢いづけると、3日目の少年A5000m競歩では男子の山田大智（西脇工高3年）、女子の逢坂ひかり（市西宮高2年）がともに大会新記録で頂点に。世界陸上女子100mH代表で成年女子100mに出場した中島ひとみ（長谷川体育施設）ら、6種目で2位に入るなど、1~8位で着実に得点を重ねた。

男女総合1位、女子総合2位で迎えた最終日。少年女子A3000mで池野絵莉（須磨学園高3年）が自己ベストの9分04秒37で3位入賞し、逆転で女子総合1位へ。最終種目の成年少年男女混合4×400mリレーは2位。優勝した福島に0秒01差の激走だった。幅広い世代の力を結集して数々の見せ場をつくった「陸上王国兵庫」が存在感を示した国スポとなった。

**男子監督 山田真利（社高教）** 「笑顔で行って、笑顔で帰ってこよう」を合言葉に、選手たちがにこやかに競技をしてくれました。兵庫県は小学生から実業団まで、どの年代でも育成・強化を頑張ってくれています。それがあつての結果。感謝の気持ちでいっぱいです。



## 第52回全日本中学選手権 [2025年8月17~20日、沖縄市]

### 男子1500m中川と砲丸投山口が優勝

2025年の沖縄全中に兵庫勢は男女計98選手が出場。男子1500mの中川悠聖（稻美北中3年）と同砲丸投の山口勇雅（播磨AC）が栄冠に輝いた。

中川は序盤から2番手でレースを展開。残り100m、3位の位置からスパートを放ち、3分59秒98で快勝した。山口は1投目の15m09で首位に立ち、3投目に15m34をマーク。後半は記録を伸ばせなかったが、そのまま勝ち切った。

入賞は男女計9つ。男子4×100mRでは豊岡南中が42秒27の兵庫中学新で

4位に入賞。四種競技では男子の田島健裕（大社中3年）が3位、女子の藤原あかり（社学園3年）が5位と健闘し、女

子砲丸投の2年生、植原渚（志方中）と永井愛花（浜の宮中）はそれぞれ3位、5位に入った。



男子	200m	⑤田中清大（大久保中3年）	22秒23(-3.1)
	1500m	①中川悠聖（稻美北中3年）	3分59秒98
	4×100mR	④豊岡南中	42秒27=兵庫中学新
		（中村颯太ー木村亮一ー平著介ー真鍋一汰）	
	走高跳	⑦石田旭（山陽中3年）	1m85
	砲丸投	①山口勇雅（播磨AC・3年）	15m34
		③三輪純平（佐用中3年）	14m75
	四種競技	③田島健裕（大社中3年）	2767点
	800m	⑤谷口由彩（豊岡南中3年）	2分12秒59
	砲丸投	③植原渚（志方中2年）	14m24
		⑤永井愛花（浜の宮中2年）	13m80
	四種競技	⑤藤原あかり（社学園3年）	2827点

## 19年ぶり“二冠”!! 男女総合V・女子総合Vに輝く



### どちらも大会新！期待に応えたアベック優勝

競歩で高校生が輝きを放った。先に登場した女子の逢坂は「最初は引っ張る選手につき、集団がばらけた後に落ち着いたら先頭に出て最後まで逃げ切る」と描いたプラン通り、冷静にレースを進めた。引き離した2位選手に最後は追い上げられたが、22分40秒75の大会新記録で、2023年国体少年男子競歩で優勝した兄の草太朗（東洋大、川西緑台高出身）に続いて、妹も栄冠。「期待してもらいたい、結果で報いることができてうれしい」と笑みがはじけた。

「自分も続こう」と臨んだ男子の山田は、1周目から先頭に立って積極性を発揮。中盤粘り、後半さらにスピードを上げ、2位に16秒差の20分03秒54の大会新記録で2連覇を飾り、インターハイ王者の貫禄を示した。「プレッシャーも一つの楽しみと思えた。今季は19分台を出し、二冠の目標も達成できよかったです」と山田。「日本高校記録（住所大翔=富士通、飾磨工高出身=19分29秒84）を狙いたい」と残り少ないチャンスに懸けている。

### 山田が5000m競歩で日本高校新！

尼崎中長距離記録（11月8日）の男子5000m競歩で山田大智（西脇工高3年）が19分20秒59の日本高校新をマークした。



### U20日本選手権 9月27~28日

男子400mで久保拓己（滝川二高3年）が自己記録の46秒51で快勝し、46秒81で橋詰竜輝（筑波大1年：社高出身）が3位。ハンマー投の清水蓮大（社高3年）は64m48で、高校生最上位の2位に入賞した。

### U18・U16大会 10月17~19日

U18女子走高跳で大森咲綺（山手高1年）が1m72で快勝し、同100mYHの福田花奏（滝川二高1年）は13秒37 (+0.3) で2位。U16では男子100mの中戸大和（衣川中3年）、同三段跳の坂田晴（自由が丘中3年）、女子砲丸投の植原渚（志方中2年）がいずれも3位と健闘した。

### U20東アジア選手権 9月27~28日：香港

女子5000mで細見芽生（名城大1年：白鷺中出身）が優勝、同100mHで井上凪紗（滝川二高3年）が2位に入った。



## 新妻遼己

「ハイレベルなレースで、留学生も強いなか、勝ち切れたことは自信になります。残り300mからのスパートは練習通り。自分の方が伸びがよかったです。西脇工業記録（13分37秒46）更新も達成できてうれしいです」

**寺本** 前半から飛ばして逃げ切ろうと思っていましたが負けて悔しいです。国スポで初めての兵庫代表で、頼もしい後輩たちと総合優勝で終わることはうれしい。



チームにぎりぎり顔向かができる順位。ハンマーを回す速度を上げて、66m、67mを狙えるようにしたい。



ターンの3、4回転目を速く回すことを意識しました。大学でも28をつけて国スポに出られるように頑張ります。



勝たなきゃと思っていたけど、これが現実。大きな大会で記録を出せるように、冬期練習頑張れよってことです。



持てる力を出すことを目標にし、結果につながってよかったです。兵庫代表として出場し、幅広い年齢の方と過ごした貴重な経験をこれからに生かしたい。

### 成年女子やり投 4位

武本紗栄 56m63

「世界陸上にもあった長いシーズン、1点でも得点することを目標に臨みました。記録も順位もよくないが、兵庫の選手として過ごせてうれしい」

### 成年男子砲丸投 5位

森下大地 17m51

「もうちょっと投げられたかな。来年の日本選手権2連覇とアジア大会に向けて、いい準備ができたシーズンでした」

### 成年女子棒高跳 6位

那須真由 3m80

「最低限得点でしたが、優勝を目指していたのでふがいない結果で悔しい。（自身の持つ）大会記録に並ばれたので、来年更新したい」

### 成年男子走高跳 6位タイ・衛藤昂 2m20

「男女総合優勝がかかる中、1点でも取りたかったので入賞できてほっとしています。多くの選手が入賞する兵庫チームで刺激をもらいました」

### 成年男子110mH 8位・徳岡凌 14秒09

「試合で力を出せないメンタルの弱さが出てしましました。所属が異なる選手と一緒に兵庫チームとして新鮮な気持ちで過ごせました」

## 第73回 全日本実業団陸上 [2025.9.26~9.28、山口市]

男子やり投の巖優作（山陽特殊製鋼）は5投目に76m04を投げて首位に立ったが、逆転されて3位となった。走高跳の衛藤昂（神戸デジタル・ラボ）は2m15を2回目に跳んで4位に。砲丸投で日本選手権優勝の森下大地（KAGOTANI）は17m28で4位。トルラック種目は1500mの高橋佑輔（山陽特殊製鋼）の5位が最高順位だった。



男子1500m 5位の高橋

男子やり投 3位の巖

男子砲丸投 4位の森下

女子は400mHの梅原紗月（住友電工）が57秒72で、ハンマー投の藤本咲良（コンドーテック）が60m52で、ともに2位入賞。棒高跳3位の那須真由（KAGOTANI）は実業団1年目から7年連続の入賞を果たした。100mHで世界選手権に出場した中島ひとみ（長谷川体育施設）は予選のみ走り、12秒91(+0.9)だった。



男子	800m	⑦四方(SAURUS TC)	1分50秒97
	1500m	⑥高橋(山陽特殊製鋼)	3分45秒00
	走高跳	④衛藤(神戸デジタル・ラボ)	2m15
	砲丸投	⑤日吉(ノリツ)	10分16秒86
	やり投	④KAGOTANI	48秒37
女子	400m	③那須(KAGOTANI)	4m00
	400mH	⑤高橋(山陽特殊製鋼)	55秒35
	3000mSC	②梅原(住友電工)	57秒72
	400mリレー	④KAGOTANI	48m64
	棒高跳	③那須(KAGOTANI)	60m52
	円盤投	④森下(KAGOTANI)	55m71
	ハンマー投	⑤工バサカ(KAGOTANI)	62m47

## 国民スポーツ大会成績

### 男女総合①122点

### 女子総合①68点

#### 男子

##### 【成年】

110mH	⑧徳岡(KAGOTANI)	14秒09
走高跳	⑥衛藤(KDL)	2m20

砲丸投	⑤森下(KAGOTANI)	17m51
-----	---------------	-------

やり投	⑥巖(山陽特殊製鋼)	74m24
-----	------------	-------

##### 【少年A】

300m	③久保(滝川二高3年)	33秒16
------	-------------	-------

	※予選33秒09=兵庫高校最高	
--	-----------------	--

5000mW	①新妻(西脇工高3年)	13分35秒33
--------	-------------	----------

5000mM	①山田(西脇工高3年)	20分03秒54
--------	-------------	----------

三段跳	②磯山(西宮東高3年)	15m52
-----	-------------	-------

ハンマー投	②清水(社高3年)	64m55
-------	-----------	-------

【少年共通】	⑧織邊(小野高3年)	2m00
--------	------------	------

#### 女子

##### 【成年】

100m	②中島(長谷川体育施設)	11秒66
------	--------------	-------

300m	⑤寺本(天理大4年)	37秒57
------	------------	-------

走高跳	⑥那須(KAGOTANI)	3m80
-----	---------------	------

三段跳	②船田(ニコニコのり)	13m27
-----	-------------	-------

ハンマー投	③藤本(コンドーテック)	62m47
-------	--------------	-------

やり投	④武本(オリコ)	56m63
-----	----------	-------

##### 【少年A】

300m	④幸長(姫路学院高2年)	39秒05
------	--------------	-------

3000m	③池野(須磨学園高3年)	9分04秒37
-------	--------------	---------

5000mW	①逢坂(市西宮高2年)	22分40秒75
--------	-------------	----------

【少年共通】	②井上(滝川二高3年)	13秒34
--------	-------------	-------

100mH	③寺本(滝川二高3年)	14秒09
-------	-------------	-------

【成年少年】男女混合4×400mR	④橋詰-幸長-久保-寺本	3分18秒68=兵庫新
-------------------	--------------	-------------

【少年】	⑤藤本(コンドーテック)	62m47
------	--------------	-------

【少年】	⑥高橋(山陽特殊製鋼)	74m24
------	-------------	-------

## 中島ひとみ

「世界陸上で心身とも疲労がきつい中、中学からずっと見てくれている兵庫の先生方へのお礼も込め（専門外の）100mで出場しました。貢献できてよかったです。来季、100mHでは12秒6台、そして5台を目指していきたいと思います」

## 井上凪紗

「少年女子共通100mH 2位 13秒34」

お父さんから

「お前の走りで（女子総合優勝が）決まるぞ」と言っていたので、決められてよかったです。



「優勝する気持ちでいたので悔しい。思うように結果は出なかったけれど、12秒台に近づけるようにこれからも頑張りたい」

# 神戸マラソン 2025 兵庫勢が男女日本人トップ



男子  
3位 熊橋  
(山陽特殊製鋼)



女子  
3位 酒井  
(シスマックス)

神戸マラソン2025（主催：兵庫県、神戸市、兵庫陸上競技協会）は11月16日、神戸市役所前（スタート）～明石市の大蔵海岸付近（折り返し）～神戸ハーバーランド（フィニッシュ）のコースで行われ、約2万人のランナーが阪神・淡路大震災から30年となる街を駆けた。

男女とも日本人トップは兵庫陸協登録の選手。男子は熊橋弘将



秋晴れの下、神戸市役所前をスタートする選手たち

（山陽特殊製鋼）が2時間11分45秒で3位となり、6年ぶりに日本人選手が表彰台に立った。女子は酒井心

希（シスマックス）が2時間35分22秒で銅メダルに輝いた。

熊橋はレース前半を先頭集団で進め、単独走になった後半は粘りを発揮した。たつの市出身で、姫路商高から山陽特殊製鋼に入って13年目。今年からコーチも兼任し、練習量が減った不安もあったというが、「ここまで走れるとは。声援が力になり、予想以上の結果になった」と気持ちよさそうに汗をぬぐった。

10月に他界した元監督の永里初さんへ「基本的な動作の大切さを教わった。いいところを見せられたかな」と感謝。4位にはチームメートの熊代拓也が入り、「地元の大会で日本人ワンツーができるうれしい」と喜びを分かち合った。

初マラソンの酒井は「予想以上にきつかった」と苦笑いしながらも、「会社の人や沿道からの応援を借りて走ることができ、すべて楽しかった」と充実感に満ちた。福井・鯖江高出身で、実業団3年目。トラックのタイムが伸びず、全日本実業団対抗女子駅伝のメンバーに入る自信がなかったため、「マラソンをしっかり走ったほうが自分のためになり、チームのギアも上がる」と今大会への出場を決意。目標の2時間35分台を達成し、「マラソンという新しい扉を開くことができた」と手応えを感じていた。

優勝はいずれもケニア選手で、男子はエリシャ・ロティッチが2時間11分02秒、女子はジャクリン・チャラルが2時間28分25秒だった。



2時間13分17秒で男子4位の熊代（山陽特殊製鋼）

## Zoom Upチーム ② シスマックス



創部20周年、駅伝で活躍できるチームを目指す

シスマックス女子陸上競技部公式サイト

<http://www.sismaxx.jp/women/>

創部は2005年12月。藤田信之監督の下、2004年アテネ五輪女子マラソン優勝の野口みづきらが京都市を拠点に始動した。2010年に全日本実業団女子駅伝に初出場し、2013年から拠点を神戸市に置く。昨年の全日本実業団女子駅伝予選会（プリンセス駅伝）は4位、本戦（クイーンズ駅伝）は14位だった。

2025年4月、全国高校女子駅伝に36年連続出場中の高知県立山田高校の永田克久先生を監督に招聘。永田監督は「まずは駅伝で成果をあげたい。会社や地域、応援してくれる方々に喜んでいただきたいですから。それが、日の丸をつけるなど個人の活躍につながつ

ていくといいと思っています」と話す。

石井寿美、酒井想、田崎優理ら5年目以上の主軸選手に加え、4年目の尾崎光は2025年、1500m・3000m・5000m・1万mで自己記録を更新するなど台頭著しい。1年目の3人にも期待。中地こころはハーフマラソンで学生歴代2位の記録を持ち、大西桃花は昨年の全国高校駅伝で5区区間賞。穂岐山芽衣は9月の全日本実業団選手権の女子ジュニア3000mで3位に入賞した。

創部20周年の今季、プリンセス駅伝は5位、クイーンズ駅伝は14位だった。応援してくれる人たちと分かちあえる感動を追いかけて、今日も走っている。

【マラソン出走者数】20,623人 【完走率】96.0%

【スタート時】晴れ・16.0°C・84%・南1.3m

男子 ①E・ロティッヂ（ケニア） 2時間11分02秒

②E・ライトシュレイ（米国） 2時間11分30秒

③熊橋弘将（山陽特殊製鋼） 2時間11分45秒

女子 ①J・チャラル（ケニア） 2時間28分25秒

②D・サマム（ケニア） 2時間30分16秒

③酒井心希（シスマックス） 2時間35分22秒

